

松本市教育研修センターだより

No.10 令和5年2月9日

第2回松本市教育委員会主催 初任者研修会を実施しました！

～ 初任者の成長した姿が印象的でした ～

1月10日（火）に松本へ赴任した初任者30名が全員参加し、市主催の第2回初任者研修を実施しました。コロナ禍の中でしたが、全員が参加しての研修が実施でき、関係の方々のご努力に心より感謝申し上げます。今回の初任者研修では、「2年目に向けて」というテーマのもと、講話やロールプレイ、互いの実践の成果や課題の交流を通して、初任者の皆さんが教師としての一年の成長を確かめあうとともに、2年目の課題と目標を明確にすることができました。

大久保和彦 教育研修センター長講話より

「自分自身が学び続ける存在に」「子どもの思いに寄り添い切る」を大切に！

- 「学びを習慣化する」ということが、とても心に残りました。教師自身がモデルとなって学び続ける姿を子どもたちに見せられるようにしたいと思いました。そのために日々の授業の主眼や板書計画を書く習慣をつけることに取り組みたいです。
- 学び続けることの大切さを感じました。一年間、たくさんの方からいろいろな教養をいただきました。今後も与えられた研修だけでなく、先生方から吸収できるようにしたいと思います。子どもへの「共感のまなざし」が人を前向きにするという話を聞き、一人ひとりの思いを考えたり、一人ひとりの努力や良さに気付ける目を持てるようにしたいと思います。
- 「寄り添う」という言葉を常々使っているが、「寄り添い切る」という言葉が新鮮でした。「子どもの思いに寄り添え切れていますか？」と問われると言葉につまるのかもしれませんが、寄り添い切れていない私にとって、ここまでの関わり方を見つめ直させてくれる言葉になります。
- 「子どもに寄り添う」という言葉は使ったことがありますが、「寄り添い切る」という部分に教師としての、大人としての責任を感じました。問題などが起きたから話すのではなく、常に子どもに声をかけ続け、子どもとともに成長していきたいと思っています。



生徒指導研修（学校支援室指導主事によるロールプレイを用いた生徒指導研修）

実際に演じてみると、子どもの気持ちに寄り添う難しさや教師の対応の大切さを実感します！

- ロールプレイングで他の先生の声がけをお聞きすると、とても優しくあたたかい声で話を聞き、周りの子どもの目を配慮して、「後で話を聞くね」としていました。そのような受け入れる広い心をもった教師を、私も目指したいと思いました。
- 「人の気持ちに立って」ということは、非常に難しいと感じました。自分では良かれと思って発した言葉や行動であっても相手からすると非常に重い意味になってしまったり、傷つけてしまったりすることがあるので、そのことを心に留めていきたいと思っています。生徒対応では感情的にならず、一呼吸をおいてから接することを大切にしていきたいと思っています。



グループ別協議Ⅰ（小学校は学年別で、中学校は教科別で自分の実践について語り合いました）

「自分も負けてはいられない」とモチベーションにつながる研修になりました！

- 同じ学年の先生の実践を聞き、共有することで、自分の指導の参考になった。自分のクラスのことを話す良い機会になったし、他の先生がどんなことをクラスでしているのかが分かり、自分もやってみようと感じたものがたくさんあった。初任の先生と会う機会が少ない中、同じような悩みを抱えていたり、困っていることを出し合ったりすることのできたので、とても心強い気持ちになった。
- 同じ5学年を担当している先生方と話すことで、共通する悩みや学校ごとの違いに触れることができました。また、主事の先生方が優しく受け止めアドバイスをくださったことで、これからまたがんばろう！と心を軽くすることができました。
- グループでの研修を通して、同じような悩みを抱えながらも毎日がんばっている仲間がたくさんいるということを改めて実感することができた。自分だけじゃないと思えることですごく励みにもなった。様々な先生方の実践や工夫を聞いて「この活動は真似してみたいな」「自分も負けてられないな」とこれからのモチベーションに繋がるような貴重な機会になったと思う。



グループ別協議Ⅱ（5月と同じメンバーで、学級指導など日ごろの悩みを語り合いました）

自分の成長を実感し、2年目に向けてさらにがんばろうと思う研修になりました！

- 5月からもう8ヶ月もたったのかと驚きました。今日またお互いの顔をみて、皆それぞれに悩みながらも日々頑張っている様子が分かり、私も明日からまたがんばろうと思うことができました。
- 5月と同じグループのメンバーで、今の自分について語ることができ、グループ皆で、できなかったことやむずかしさを感じていたことが、できるようになってきている自分たちに気づくことができました。2年目に向けて、前向きな気持ちをもてる時間でした。
- 学習指導・生徒指導の双方において、協議を通して悩みを打ち明けることができました。これまで様々な研修を経て学びを積み重ねてきましたが、正直全てを習得できておらず、むしろ実際に学びを生かすとなると混乱してしまう状況が多かったです。不安や悩みばかりが増えていくばかりでしたが、同じ不安や悩みを抱えていることを知り気持ちが楽になったとともに、ご指導いただき2年目に向けてさらに頑張ろうという気持ちです。



研修最後のまとめの会で、初任者の代表が次のようなあいさつをしました。

「今日、学校を出る時に先輩の先生から『ご苦労様。研修、大変だね』と言葉をかけていただきました。大変だと言っていただきましたが、自分は今日のこの研修をすごく楽しみにしていました。5月の研修も楽しかったし、その先生方とまたいろいろ話せると思ったからです。（中略）これからは一番ベストな言葉をかけられるようにしていきたいです。そして、毎日学びながら頑張っていきたいと思います。今日はありがとうございました」。

代表者が語ってくれたように、市の初任者研修は、実際に対面で話すことにより、お互いの本音を語りやすく、よい仲間づくりと自分の成長を実感する機会となりました。授業づくりのグループ別協議Ⅰでは、約50分間、用意した板書写真などを提示しながら自分の実践を語り、仲間や助言者からのアドバイスに熱心に耳を傾け、自らの授業実践を振り返り、次への期待と修正点に気づき、希望溢れる表情に変わっていく初任者が大勢いました。コロナ禍の影響を受けながらも、自分のできること・やるべきことに誠実に取り組みながら、2年目に向けて教師として自覚と目標をもった、学びと実りの多い研修になったと思います。各学校では、初任の先生方を温かくお支えいただき誠にありがとうございました。